

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-239238

(43)Date of publication of application : 31.08.1999

(51)Int.Cl.

H04N 1/00

H04M 11/00

H04N 1/21

(21)Application number : 10-038455

(71)Applicant : NEC CORP

(22)Date of filing : 20.02.1998

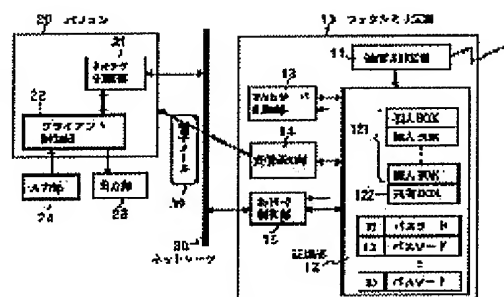
(72)Inventor : OZEKI TOSHIAKI

(54) FACSIMILE EQUIPMENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide facsimile equipment that protects the security when a personal computer connecting with a network uses a browser for the WWW to browse a document addressed personally and confidentially (the document is of all data sent/received by a facsimile equipment).

SOLUTION: Upon receipt of a confidential document, the facsimile equipment 10 stores the confidential document to a personal BOX 121 for confidential document users in a storage section 12. The facsimile equipment 10 has a function of a Web server and registers a storage destination of the confidential document to a Web server control section 13. Then a reception notice section 14 informs the confidential document user of the arrival of an electronic mail 32, and the confidential document user receiving the notice accesses the facsimile equipment 10 by using a personal computer 20 and enters an ID and a password. Being informed of a link destination of the confidential document, the user browses the confidential document by using it.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-239238

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月31日

| (51) Int. Cl. ⁶ | 識別記号 | F I |
|----------------------------|-------|----------------------|
| H 0 4 N 1/00 | 1 0 4 | H 0 4 N 1/00 1 0 4 Z |
| H 0 4 M 11/00 | 3 0 3 | H 0 4 M 11/00 3 0 3 |
| H 0 4 N 1/21 | | H 0 4 N 1/21 |

審査請求 有 請求項の数6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平10-38455

(22) 出願日 平成10年(1998) 2月20日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 尾関 俊明

東京都港区芝5丁目7番1号 日本電気株式会社内

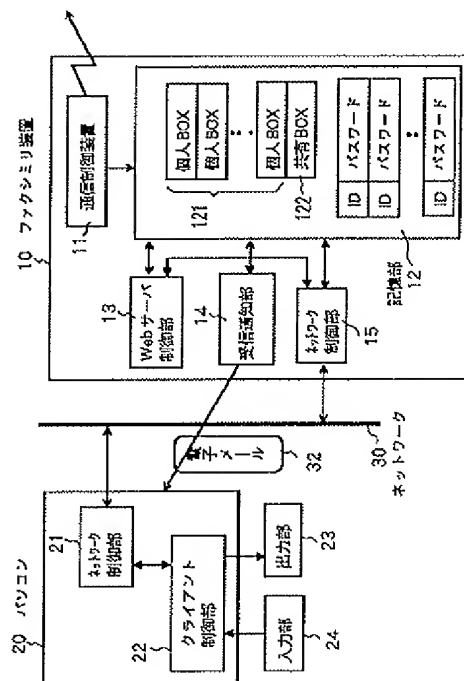
(74) 代理人 弁理士 松浦 兼行

(54) 【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57) 【要約】

【課題】 ファクシミリ装置をWebサーバーにすると、定期的にブラウザを用いてWebサーバーであるファクシミリ装置にアクセスしなければならない。また、ネットワークに接続されていれば、どのパソコンからもブラウザを利用して誰でも親展文書を閲覧可能となり、機密を守ることができない。

【要約】 ファクシミリ装置10は親展文書を受信すると、記憶部12にある親展先ユーザの個人BOX121にその親展文書を格納する。ファクシミリ装置10はWebサーバーとしての機能をもっており、Webサーバー制御部13にこの親展文書の記憶先を登録する。次に、受信通知部14によって親展先ユーザに電子メール32が通知される。これを受けて親展先ユーザは、パソコン20からファクシミリ装置10にアクセスし、ID、パスワードを入力する。すると、親展文書へのリンク先を通知されるので、これを用いて親展文書の閲覧を行う。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ネットワークに接続されてサーバーとして機能するファクシミリ装置であって、別のファクシミリ装置との間でファクシミリ情報である文書データの送受信を行うと共に、受信した文書データが個人宛ての親展文書であるか否か判断する通信制御装置と、前記通信制御装置により少なくとも親展文書であると判断された第1の文書データと、親展文書でないと判断された第2の文書データとを区別して別々の記憶領域に記憶する記憶手段と、前記記憶手段に前記第1又は第2の文書データが記憶されたときに、前記ネットワークを介してその記憶文書データに対応するクライアントへ文書受信の電子メールを通知する受信通知部と、前記記憶手段に前記第1又は第2の文書データが記憶されたことが登録され、前記クライアントから前記ネットワークを介してそのクライアントの識別情報が入力されたときに、前記記憶手段により該識別情報が示すクライアント宛ての前記第1の文書データがあるか否か検索させてその検索結果を受け、前記第1の文書データがあるときにはその第1の文書データが格納されている記憶領域へのリンク情報を該ネットワークを介して前記クライアントへ通知し、前記第2の文書データがあるときにはその第2の文書データが格納されている記憶領域へのリンク情報を該ネットワークを介して前記クライアントへ通知するサーバー制御部と、前記クライアントからの前記リンク情報に基づくアクセスがあったときに、そのリンク情報に対応する記憶手段の記憶領域から前記第1の文書データ又は第2の文書データを読み出して該クライアントへ送信するネットワーク制御部とを有することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】 前記通信制御装置は、受信した文書データが前記親展文書であるときには、その親展受信のIDを取得し、前記記憶手段は、該通信制御装置から入力される該親展受信のIDが記憶されているかどうか検索し、記憶されているときにはそのIDの専用記憶領域に前記親展受信の文書データを前記第1の文書データとして記憶し、記憶されていないとき又は親展受信でない文書データであるときには、その受信文書データを前記第2の文書データとして、共有記憶領域に記憶することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項3】 前記受信通知部は、前記記憶手段に前記第1の文書データが記憶されたときには、前記ネットワークを介して該第1の文書データが記憶された専用記憶領域に対応するIDのクライアントへ文書受信の電子メールを通知し、前記第2の文書データが記憶されたときには、前記ネットワークを介して前記記憶手段にIDが登録されているすべてのクライアントへ文書受信の電子

メールを通知することを特徴とする請求項2記載のファクシミリ装置。

【請求項4】 前記通信制御装置は、送信側の相手のファクシミリ装置から送信された非標準機能設定信号中の親展受信ビットから、受信する文書データが個人宛ての親展文書であるか否か判断し、親展文書であると判断したときには該非標準機能設定信号中の親展受信のIDを取り込み、前記記憶手段に通知することを特徴とする請求項2記載のファクシミリ装置。

【請求項5】 前記記憶手段は、前記第1の文書データを記録したときに、その第1の文書データが記憶された専用記憶領域に対応するリンク先情報を変更して登録し、前記受信通知部は、前記ネットワークを介してその登録文書データに対応するクライアントへ文書受信の電子メールを変更後のリンク先情報を添付して通知することを特徴とする請求項4記載のファクシミリ装置。

【請求項6】 前記リンク先情報はIDとパスワードからなり、前記リンク先情報の変更は該パスワードを変更することで行うことを特徴とする請求項5記載のファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はファクシミリ装置に係り、特にパーソナルコンピュータ（以下、パソコンと略す）から、ワールドワイドウェブ（WWW）を閲覧可能なブラウザを用いて、親展として個人宛てに届いた文書を受信して閲覧できる親展文書受信用のファクシミリ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、ネットワークシステムの普及により、複数のパソコンがネットワークに接続され、あるパソコンで作成されたデータをネットワークを通してほかのパソコンで編集する等の処理が行われるようになった。

【0003】更に、このような環境下において、ファクシミリ装置が受信した文書をパソコンに転送したり、パソコンで作成された文書をファクシミリ装置に転送して送信させる、といったことが行われるようになってきている。

【0004】通常、このようなことをする場合、ファクシミリ装置側には受信した文書をパソコンに転送するために、サーバーとしての機能が必要になるため、サーバーのソフトウェアが必要になる。一方、パソコン側にはクライアントとしての機能が必要になるため、クライアントのソフトウェアが必要となる。また、転送するデータに追加があったり、削除したいものがあった場合、ソフトウェアの改造に手間がかかってしまう。

【0005】このような問題を解決するために、インターネットにアクセスする際に利用されるようになった、WWWを閲覧するためのブラウザ等のツールを利用して

情報を取り出すようになった。すなわち、ブラウザを利用した場合、ブラウザには表示させるだけの最低限の機能しか用意されておらず、ウェブ（Web）サーバーに、ブラウザで表示させるためのソースを用意している。

【0006】このため、転送するデータに追加があったり、削除したいものがあった場合には、クライアントのソフトウェアであるブラウザに手を加えることなく、サーバー側のソフトウェアに変更を加えればよい。また、パソコンに対してクライアントソフトの再配布、再インストールを必要とせず、利用者に対する影響も少ない。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、通常、このようなブラウザは、Webサーバーに対して受信するデータの要求を出し、それに対してWebサーバーがクライアントであるブラウザに対してデータ転送を行うようにしているため、ファクシミリ装置をWebサーバーにすると、ファクシミリを受信した場合、受信したことをパソコンに通知する手段がない。そのため、定期的にブラウザを用いてWebサーバーであるファクシミリ装置にアクセスをしなければならない。

【0008】また、ネットワークに接続されていれば、どのパソコンからもブラウザを利用すれば、Webサーバーにアクセス可能であり、ファクシミリ装置をWebサーバーにした場合、親展受信した文書であっても、ブラウザを利用して誰でもこの文書を閲覧可能となり、機密を守ることができない。

【0009】本発明は以上の点に鑑みなされたもので、ネットワークに接続されたパソコンから、WWWを閲覧可能なブラウザを用いて、親展として個人宛てに届いた文書（ファクシミリで送受信が可能なデータすべてを指す）を閲覧する際に機密を守ることができるファクシミリ装置を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明は上記の目的を達成するため、ネットワークに接続されてサーバーとして機能するファクシミリ装置であって、別のファクシミリ装置との間でファクシミリ情報である文書データの送受信を行うと共に、受信した文書データが個人宛ての親展文書であるか否かを判断する通信制御装置と、通信制御装置により少なくとも親展文書であると判断された第1の文書データと、親展文書でないと判断された第2の文書データとを区別して別々の記憶領域に記憶する記憶手段と、記憶手段に第1又は第2の文書データが記憶されたときに、ネットワークを介してその記憶文書データに対応するクライアントへ文書受信の電子メールを通知する受信通知部と、記憶手段に第1又は第2の文書データが記憶されたことが登録され、クライアントからネットワークを介してそのクライアントの識別情報が入力された

ときに、記憶手段により識別情報が示すクライアント宛ての第1の文書データがあるか否かを検索させてその検索結果を受け、第1の文書データがあるときにはその第1の文書データが格納されている記憶領域へのリンク情報をネットワークを介してクライアントへ通知し、第2の文書データがあるときにはその第2の文書データが格納されている記憶領域へのリンク情報をネットワークを介してクライアントへ通知するサーバー制御部と、クライアントからのリンク情報に基づくアクセスがあったときに、そのリンク情報に対応する記憶手段の記憶領域から第1の文書データ又は第2の文書データを読み出してクライアントへ送信するネットワーク制御部とを有する構成としたものである。

【0011】本発明では、ファクシミリ装置内の親展文書であると判断された第1の文書データ又は親展文書でないと判断された第2の文書データが記憶手段に記憶されたときに、ネットワークを介してその記憶文書データに対応するクライアントへ文書受信の電子メールを通知する。

【0012】また、本発明では、ネットワークに接続されているクライアントは、ファクシミリ装置に入力した識別情報に基づき、自己宛ての第1の文書データがあるときにのみ、その第1の文書データが格納されている記憶手段の記憶領域へのリンク情報をネットワークを介して通知される。

【0013】また、上記の通信制御装置は、受信した文書データが親展文書であるときには、その親展受信のIDを取得し、上記の記憶手段は、通信制御装置から入力される親展受信のIDが記憶されているかどうかを検索し、記憶されているときにはそのIDの専用記憶領域に親展受信の文書データを第1の文書データとして記憶し、記憶されていないとき又は親展受信でない文書データであるときには、その受信文書データを第2の文書データとして、共有記憶領域に記憶することを特徴とする。

【0014】また、本発明は上記の受信通知部を、記憶手段に第1の文書データが記憶されたときには、ネットワークを介して第1の文書データが記憶された専用記憶領域に対応するIDのクライアントへ文書受信の電子メールを通知し、第2の文書データが記憶されたときには、ネットワークを介して記憶手段にIDが登録されているすべてのクライアントへ文書受信の電子メールを通知する構成としたものである。

【0015】この発明では、親展文書でない文書データ又は親展文書であっても記憶されているID以外の文書データであるときには、記憶手段にIDが登録されているすべてのクライアントにより当該文書データを閲覧することができる。

【0016】また、本発明は、上記の通信制御装置を、送信側の相手のファクシミリ装置から送信された非標準

10

20

30

40

50

機能設定信号中の親展受信ビットから、受信する文書データが個人宛ての親展文書であるか否か判断し、親展文書であると判断したときには非標準機能設定信号中の親展受信のIDを取り込み、記憶手段に通知することを特徴とする。

【0017】また、本発明は、上記の記憶手段を、第1の文書データを記録したときに、その第1の文書データが記憶された専用記憶領域に対応するリンク先情報を変更して登録し、受信通知部は、ネットワークを介してその登録文書データに対応するクライアントへ文書受信の電子メールを変更後のリンク先情報を添付して通知することを特徴とする。この発明では、リンク先情報が記憶手段に第1の文書データが記憶される毎に変更される。

【0018】ここで、上記のリンク先情報はIDとパスワードからなり、リンク先情報の変更はパスワードを変更することで行うことができる。

【0019】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態について説明する。図1は本発明になるファクシミリ装置の一実施の形態がネットワークを介してパソコンに接続されたシステム構成図を示す。同図において、本実施の形態のファクシミリ装置10は、パソコン20とネットワーク30を介して接続されており、互いにデータの送受信が可能である。

【0020】ファクシミリ装置10は、ファクシミリの送受信を制御する通信制御装置11と、中央処理装置

(CPU)による判断機能を有しており、文書データ等を保持しておく記憶部12と、ファクシミリ装置10をWebサーバーとするためのWebサーバー制御部13と、文書が届いたことをユーザに通知するための受信通知部14と、パソコン20とネットワーク30を介してデータの送受信を行うネットワーク制御部15とからなる。

【0021】パソコン20は、ネットワークを介してデータの送受信を行う、ネットワーク制御部21と、ブラウザを実行するためのクライアント制御部22と、文書を表示するための出力部23と、キーボード等の入力部24とからなる。

【0022】ファクシミリ装置10内の記憶部12には、ファクシミリ装置10に登録されているユーザのID、パスワードが格納されており、また、このユーザ宛の文書を格納しておくID毎の専用の記憶領域である個人ボックス(BOX)121がある。この個人BOX121には、ユーザのID、パスワードから計算することで一意に決まる記号(数字、アルファベット、等)をリンク名として付けている。このリンク名は、ID、パスワードから容易に想像できないものであり、パスワードを変更することで、このリンク名も変更されるものとする。

【0023】更に、記憶部12には親展受信でない通常

の文書を格納しておくために、誰でも閲覧可能な共有BOX122があり、これもまた、リンク名を付けている。また、記憶部12は、Webサーバー制御部13から前記リンク名を参照でき、クライアント制御部22からURL(ユニフォーム・リソース・ロケータ)に前記リンク名を指定することで、そこに格納してある文書を閲覧できるものとする。

【0024】また、受信通知部14は、常に個人BOX121を監視しており、新しい文書が個人BOX121に格納された場合、このユーザに対して、ファクシミリ装置10にファクシミリが届いたことを電子メール32で通知することができる。

【0025】ファクシミリ装置10は親展文書を受信すると、記憶部12にある親展先ユーザの個人BOX121にその親展文書を格納する。ファクシミリ装置10はWebサーバーとしての機能をもっており、Webサーバー制御部13にこの親展文書の記憶部12内のどこに記憶されたかの情報を登録する。

【0026】次に、受信通知部14によって親展先ユーザに電子メール32が通知される。これを受けて親展先ユーザは、パソコン20からファクシミリ装置10にアクセスする。このとき、パソコン20はファクシミリ装置10からIDとパスワードを要求されるので、これに対してID、パスワードを入力する。すると、親展文書へのリンク先を通知されるので、これを用いて親展文書の閲覧を行う。

【0027】次に、この実施の形態の動作について、更に詳細に説明する。まず、ファクシミリ装置10の動作について図1乃至図3と共に説明する。図1において、ファクシミリ装置10は、ファクシミリ装置10と同様構成のファクシミリ装置(図示せず)と接続されており、この相手のファクシミリ装置からファクシミリ信号が送信されてファクシミリ装置10の通信制御部11で受信されたものとする(図2のステップA1)。

【0028】このファクシミリ装置10と相手のファクシミリ装置との間の送受信は、図3(A)のシーケンス図に従って行われる。まず、受信側のファクシミリ装置10の通信制御装置11は着信があると、送信側の相手のファクシミリ装置に対して、非標準機能識別信号(NSF)が送信され(図3(A)のステップ41)、続いてデジタル識別信号(DIS)が送信され、所定の受信機能を有することを通知する(図3(A)のステップ42)。

【0029】すると、送信側の相手のファクシミリ装置から非標準機能設定(NSS: Non-Standard facilities Set-up)信号がファクシミリ装置10に送信される

(図3(A)のステップ43)。このNSS信号は、図3(B)に示す如きフォーマットとされており、送信するファクシミリ信号が親展文書に関するものであるか否かを示す親展受信ビット50と、親展受信のID51と

を有している。そこで、通信制御装置11は、このNSS信号中の親展受信ビット50から親展受信かどうか判断し(図2のステップA2)、親展受信であるときにはNSS信号中の親展受信のID51を取得する(図2のステップA3)。

【0030】以後、送信側の相手のファクシミリ装置とファクシミリ装置10の間では、トレーニングチェックが行われ(図3(A)のステップ44)、ファクシミリ装置10から手順完了を示す受信準備確認(CFR)信号が送信され(図3(A)のステップ45)、これに基づき相手のファクシミリ装置から画データやテンポファイルなどのファクシミリ情報がファクシミリ装置10に送信されてくる(図3(A)のステップ46)。

【0031】上記のファクシミリ情報の送信が終了すると、相手の送信側ファクシミリ装置から手順終了(EOP)信号が送出され(図3(A)のステップ47)、これに回答してファクシミリ装置10がメッセージ確認(MCF)信号によりファクシミリ情報を完全に受信したことを通知し(図3(A)のステップ48)、これを受けて送信側ファクシミリ装置が切断命令(DCN)信号を送信して(図3(A)のステップ49)、送信を終了する。

【0032】一方、ファクシミリ装置10において、親展受信であるときに伝送制御装置11により取得されたIDを、判断機能を有する記憶部12が受け、該当IDを検索し(図2のステップA4)、該当個人BOXが存在するかどうかチェックする(図2のステップA5)。記憶部12は検索の結果、該当IDが存在する場合は、個人BOX121のうちそのIDの個人BOXに上述したステップ46で受信した文書データ(ファクシミリ情報)を格納する(図2のステップA6)。

【0033】他方、ステップA2で親展受信でないと判断した場合、又は親展受信であってもステップA5で記憶部12に該当IDが存在しないと判断した場合は、記憶部12は通常の文書の受信として、誰でも閲覧可能な共有BOX122に上述したステップ46で受信した文書データ(ファクシミリ情報)を格納する(図2のステップA7)。

【0034】上記のステップA6での個人BOXへの受信文書データ格納後、又は上記のステップA7での共有BOX122への受信文書データ格納後、その格納の通知を受けたWebサーバー制御部13がパソコン20から閲覧が可能になるように、記憶部12のどのBOX(記憶領域)に記録されたかを示すアドレス情報の登録を行う(図2のステップA8又はA9)。パソコン20から閲覧する時には図6に60で示すような個人BOXの内容一覧の表示に対応した情報が、Webサーバー制御部13に用意しておかなければならない。この内容一覧に上記文書データを追加することで登録は終了する。

【0035】次に、受信通知部14がそれぞれの個人B

OX及び共有BOX122に新しい文書がないかチェックする。親展受信があった場合には、受信通知部14によってチェックされた個人BOXのユーザ(パソコン)に対して、電子メール32が生成されてネットワーク30を介して通知される(図2のステップA10)。親展受信でない場合、又は親展受信であってもIDが存在しない場合は、受信通知部14によってチェックされたファクシミリ装置10に登録されているユーザすべてに対して、電子メール32が生成されて通知される(図2のステップA11)。

【0036】次に、図1、図4及び図5を参照して、パソコン20の動作について説明する。まず、パソコン20は電子メール32を受信すると(図4のステップB1)、クライアント制御部22でブラウザを実行し、Webサーバーであるファクシミリ装置10にアクセスする(図4のステップB2)。これにより、ファクシミリ装置10内のWebサーバー制御部13は、ネットワーク制御部15を介してIDとパスワードを要求する。パソコン20内のクライアント制御部22は、ファクシミリ装置10からのIDとパスワードを要求する表示を出力部23に出力する。

【0037】これにより、パソコン20の使用者が入力部24よりID、パスワードを入力すると(図4のステップB3)、これを受けてクライアント制御部22はネットワーク30及びネットワーク制御部15を介してWebサーバー制御部13にIDとパスワードを通知する。Webサーバー制御部13は、記憶部12に通知されたID、パスワードの問い合わせを行う。

【0038】記憶部12は該当するID、パスワードを検索し、該当データがあった場合、そのIDの個人BOXへのリンクをWebサーバー制御部13へ通知する。Webサーバー制御部13はこのリンク情報をネットワーク制御部15を介してパソコン20内のクライアント制御部22へ通知する。クライアント制御部22は通知されたリンクへアクセスを行い、その個人BOXから受信した親展文書を出力部23に出力し、親展文書を表示させる(図4のステップB4)。

【0039】図5はこのときの入力画面を表す図である。IDの表示領域61、パスワードの表示領域62にそれぞれ入力したIDとパスワードが表示され、親展文書ボタン63を押す。親展文書ボタン63には前記リンクが割り当てられており、前記個人BOXにある、親展文書にアクセスができる。また、共有文書ボタン64を押すと、共有BOX122へのリンクがあらかじめ設定されており、通常文書に対しても同様にアクセスができる。

【0040】次に、本発明の他の実施の形態について図1及び図7を参照して詳細に説明する。本実施の形態の図7のフローチャートは、図2のフローチャートにステップA12、A13の処理を加えたものである。図1、

10

20

30

40

50

図7を参照して、説明をする。まず、個人BOXに受信文書データを格納する毎に（図7のステップA6）、新しいパスワード（PW）を生成し、このユーザのパスワードとして登録し、リンク先を変更する（図7のステップA12）。

【0041】また、IDとパスワードから導き出される個人BOXのリンク名もこれに応じて変更される。次に、Webサーバー制御部13へ文書の登録を行う（図7のステップA8）。次に、受信通知部14が、電子メール32をこの個人ボックスのユーザに対して通知する（図7のステップA13）。このとき、電子メールには、新しい文書が届いたことの通知のほかに、パスワード（もしくは個人BOXを指し示すリンク名）を添付して送信する。

【0042】本実施の形態では、個人BOXに受信文書データを格納する毎にパスワードが変更されるので、電子メールの機密性が保たれるならば、図1の実施の形態より更にセキュリティを高くできる。

【0043】また、電子メールにリンク名が載っていた場合には、電子メールからブラウザを起動させることにより、このリンク先にアクセスできるようにしておく。この状態で前記パスワードの代わりに個人BOXを指し示すリンク名を電子メールに添付することにより、さらに手軽に文書を閲覧することが可能となる。

【0044】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ファクシミリ装置内の親展文書であると判断された第1の文書データ又は親展文書でないと判断された第2の文書データが記憶手段に記憶されたときに、ネットワークを介してその記憶文書データに対応するクライアントへ文書受信の電子メールを通知するようにしたため、Webサーバーであるファクシミリ装置に文書が届いているか確認する必要がなく、クライアントの余分な手間を無くすることができる。

【0045】また、本発明によれば、ネットワークに接続されているクライアントは、ファクシミリ装置に入力した識別情報に基づき、自己宛ての第1の文書データがあるときにのみ、その第1の文書データが格納されている記憶手段の記憶領域へのリンク情報をネットワークを

介して通知されるため、親展として個人宛に届いた第1の文書データを他人に見られることなく、閲覧する事ができる。

【0046】更に、本発明によれば、パスワードを変更しなければ、IDとパスワードから割り出されるリンク先は変わらないので、ブラウザにリンク先として登録しておくことで、後でIDとパスワードを入れなくて済み、また、パスワードを変更することで、リンク先も変更されるので、他人に見られる可能性が少ないという特長がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態がネットワークを介してパソコンに接続されたシステム構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の一実施の形態の動作説明用フローチャートである。

【図3】本発明の一実施の形態の通信シーケンスを示す図である。

【図4】図1中のパソコンの動作説明用フローチャートである。

【図5】図1中のパソコンで表示されるユーザ認証の説明図である。

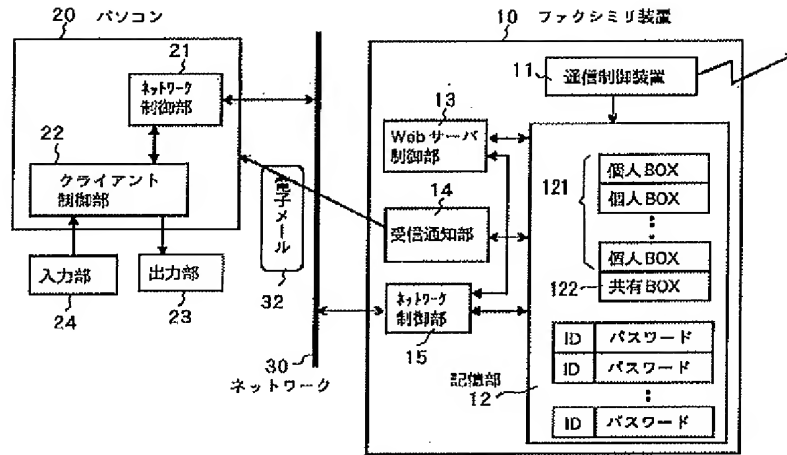
【図6】図1中のパソコンで表示される文書一覧の説明図である。

【図7】本発明の他の実施の形態の動作説明用フローチャートである。

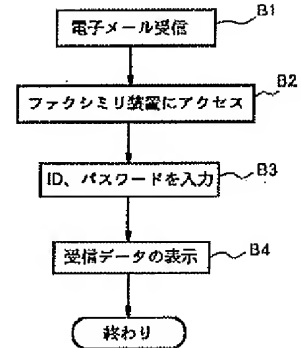
【符号の説明】

- 10 ファクシミリ装置
- 11 通信制御装置
- 12 記憶部
- 13 Webサーバー制御部
- 14 受信通知部
- 15 ネットワーク制御部
- 20 パーソナルコンピュータ（パソコン）
- 21 ネットワーク制御部
- 22 クライアント制御部
- 23 出力部
- 24 入力部
- 30 ネットワーク

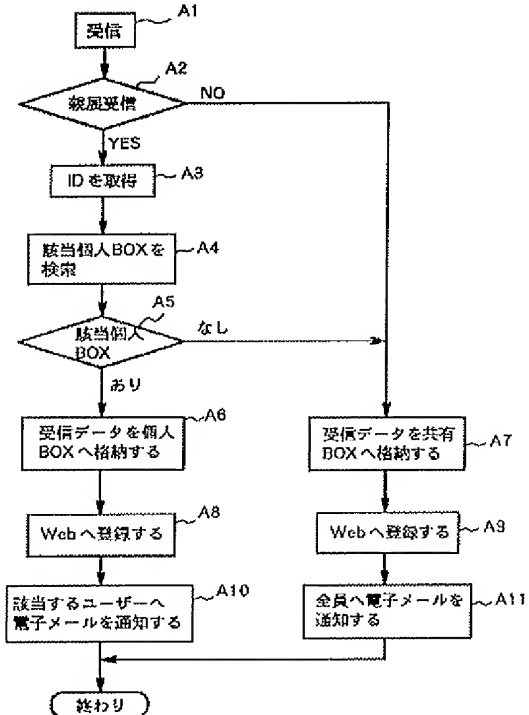
【図1】



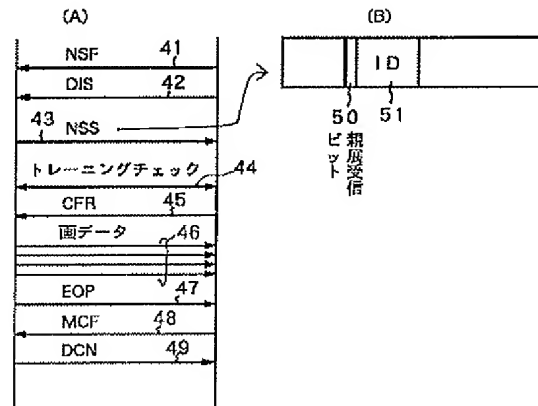
【図4】



【図2】

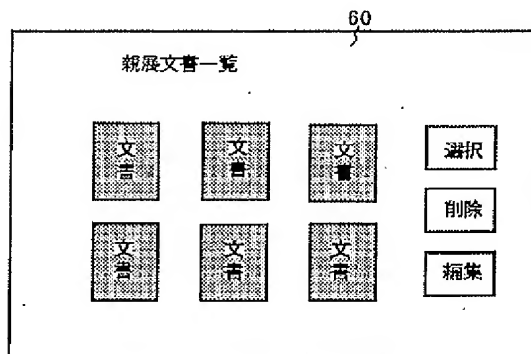


【図3】



【図5】

【図6】



【図7】

